

AAALA ニュース 第 158 号

内容紹介

01 , R・グラムズ「ニューカレドニア・カナク人の反乱」

フランス左派雑誌「フラストレーション」で健筆をふるう国際ジャーナリストが、200年以上続く「フランス植民地主義」とのたたかひの歴史を概説

02 D・C 「NATO の民間傭兵会社になったウクライナ」

禁止されたウクライナ共産主義者組織「ボロトバ」党员で、キエフ在住のジャーナリストが、戦争の実情と市民の現状を語る。ベネズエラの新聞「オリノコ・トリビューン」紙のインタビュー。

03 新藤通弘「キューバ共産党のレジリアンス(抵抗力)」

「みせかけの満場一致は一般に架空のものであり、有害でさえある」。ラウル・カストロ前議長の発言など、アメリカ帝国主義とたたかう党の力の源泉についての一考察。

04 P/エスコバル「中国・ロシア・イランによる新国際秩序に」

急死したイランのライシ大統領がすすめた外交。接近する3国が展望する新しいユーラシア秩序はどのようなインパクトを与えるか。左派国際ジャーナリストの分析。

05 3大陸誌「ハイパー帝国主義」(1)

経済力が後退するアメリカ帝国主義が、戦争と軍事力によってグローバルノースを糾合し、覇権維持をはかる。その戦略と現代的な特徴を分析。キューバに拠点を置く3大陸研究所が 月に発表した論文の前文と第一章。

その他の記事は「鈴木頌 AALA ニュース編集日記」で参照できます
([aala_news の編集日記 \(livedoor.jp\)](#))